

|                                        |                  |                       |                             |
|----------------------------------------|------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 主題                                     | 口腔ケアの重要性と職員の意識改革 |                       |                             |
| 副題                                     | ～肺炎者ゼロを目指して～     |                       |                             |
| 口腔ケア                                   |                  | 肺炎者ゼロ                 |                             |
| 研究期間                                   | 36ヶ月             | 事業所                   | 特別養護老人ホーム ヨコタホーム            |
| 大山 浩司（おおやま ひろし）                        |                  | アドバイザー：小松 和枝（こまつ かずえ） |                             |
| 共同研究者：諸留 良紀（もろとめ よしのり） 大森 麻美（おおもり あさみ） |                  |                       |                             |
| 電 話                                    | 042-553-6633     | メール                   | yokotahome@mokuseikai.or.jp |
| FAX                                    | 042-553-6686     | URL                   | http://www.mokuseikai.or.jp |

|                  |                                                                                                                                              |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 特別養護老人ホーム・ヨコタホームは平成8年4月に開設され、入所定員100名・ショートステイ6名の施設です。2階と3階にそれぞれ50名」とショートステイの方が生活されています。ホームの平均介護度は平成25年度6月1日の時点で3.95 平均年齢は平成25年6月1日の時点で85.6歳。 |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究前の状況と課題》

平成22年度

- ・ 肺炎での入院者は1年間で20名であった。

平成23年度

- ・ 口腔指導開始するも、23年度も肺炎での入院者は21名と減らなかった。
- ・ 職員間での口腔ケアに対しての意識が薄かった。
- ・ 口腔指導の内容を職員全員に周知する場がなかった。
- ・ 利用者個人に適した歯ブラシ等（ポイントブラシ・舌ブラシ・クルリーナブラシ・etc・・・）の物品が不足していた。
- ・ 職員の意識の中で口腔ケア介助を拒否する方達は「仕方がない」と諦め、ご自分で行う人達は、「多分口の中はきれいになっているだろう」と思い込み介入しなかった。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- ・ 職員の口腔ケアの重要性に対する意識を強く持ってもらうことで、口腔ケアを疎かにした時のリスクを知ることや、利用者個別の介助方法などを実践することで、虫歯や歯周病などの口腔内感染症の予防や、誤嚥性肺炎の予防に期待して、口腔ケアに取り組んだ。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

平成 24 年度

- ・ 歯科衛生士による一ヶ月に 1 回の口腔指導を徹底し、指導内容が職員全員に周知できるようにフロア会議や申し送りなどの際に、指導、周知した。
- ・ 口腔指導の際、毎回テーマを決め「ブラッシングの正しい方法」「義歯の手入れ」「口腔ケア物品の正しい使い方」「歯周病について」の 4 項目をローテーションで指導。（繰り返し行うことで確実に指導内容を覚えてもらう。又振り返りの意味合いも兼ねて）
- ・ 利用者の口腔ケアに関するアセスメント（一人でうがい、ブラッシングが可能か？義歯か自歯か？自歯の際は何本残っているのか？舌が汚れていないか？など・・・）を行い、各利用者に適した口腔物品を用意した。
- ・ 歯科衛生士による口腔指導だけでなく、施設内研修という名目で歯科医師の直接指導なども行い、職員の口腔ケア技術の向上を図った。

### 《4. 取り組みの結果と考察》

- ・ 肺炎での入院者数が H22 年度 20 名  
H23 年度 21 名  
H24 年度は 5 名まで減少した。
- ・ 口腔ケア介助を拒否される方達も、毎食後声掛けを行うことで拒否される方が減った。
- ・ 自分で口腔を行う方達も、「多分口の中はきれいになっているだろう」という意識ではなく、口腔内に残渣物が残っていないかなどの確認を各職員が忘れずに行うようになった。

### 《5. まとめ、結論》

口腔指導を行っていく中で、職員の口腔ケアに対しての意識が強くなり、口腔の知識、技術が向上し、結果的に肺炎での入院者が大幅に減少した。

今後の展望としては、肺炎者ゼロを目指して、繰り返し口腔指導を行うとともに、指導、実践を行いながら、職員一人一人の技術が一定の水準に達しているか評価を行い、技術が未熟な部分、又は職員が日頃口腔ケアを行う中で疑問に思っていることや、知りたいことなどを吸い上げ、職員には常に、疑問、向上心を持ってもらうよう口腔ケア担当者が随時指導、発信していく。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人、ご家族に口頭にて確認をし、本研究発表以外で使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《8. 提案と発信》

口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎などの発症を減らすことができると学んだ。今の取り組みを継続しつつ、今後の展望として、「利用者の食欲の改善」「軟らかい食べ物しか、食べられなかった方が固い物も食べられるようになった」など、肺炎者を減らすことだけでなく、もっと広い角度で利用者の口腔ケアに取り組む施設を目指す。

【メモ欄】